

伊勢湾台風 (5915号) による

# 高水速報

昭和34年9月26日

5915

昭和34年10月8日

近畿地方建設局

## ま え が き

その規模において、室産台風（昭和9年）、枕崎台風（昭和20年）ノ3号台風（昭和28年）などに匹敵する超A級の伊勢湾台風は又々中部、近畿に大きな爪跡を残した。伊勢湾北部名古屋地方を襲った高潮は稀に見る大きなもので、今まで判明しただけでも死者行方不明5,500名に及び、その上捲りからの大汐と重って排水は困難を極め、伝染病が発生し、わが国台風災害の中で最も悲惨なものとなった。

近畿地方は台風が直接通過したのであるが、台風進路の左側にあつたために暴風よりも、豪雨のために淀川、紀ノ川、円山川、由良川、九頭竜川と直轄河川中5河川が計画高水位を越しあるいはこれに近い増水を見たが、円山川に破堤氾濫を見た外、大きな災害とならなかつたのは幸いであつた。

淀川は先に台風ノ3号の災害を受け、その経験に基づいて河川計画の検討を行つた結果、昭和29年淀川改修基本計画が治水審議会で承認せられ、爾后その基本計画に基づいて天ヶ瀬、高山両ダムの計画を推進し、淀川河道の改修に努めて来たのであるが、今年は8月の7号台風、9月の伊勢湾台風と二度も現計画を越す増水に見舞われ、一日も早く、基本計画を完成する必要を痛感した。特に今回の流量は木津川においては既往最大であつて、今後早速に水理資料を検討し、必要あれば木津川上流のダム計画に修正を加えたいと考えている。

又今回の出水は紀ノ川上流吉野川筋に於いても既往最大であり、円山川、由良川、九頭竜川にとつても貴重な資料であつて、各々その計画高水流量及び改修計画の再検討に努めるつもりである。

この報告は、これら河川の計画検討の第一着手として短時日の中にまとめたものであつて幾多検討を要する点もあると思われるが、後日の高水報告で訂正することとしてとりあえず速報する。

終りにこの速報のとりまとめにあつては気象庁、各府県、及び各工

事々務所の関係者の一方ならぬ協力に負うところ多く深く感謝する次第である。特に暴風雨の下観測に挺身された才一線観測員の中には流量観測中、橋梁が流失して洪水の中に孤立した橋台に一夜を暴風雨と不安に闘いながら過ぎた流量観測員、家財は流失させても野帖は腹巻にいだいて避難された水位観測員暴風雨の下観測施設を死守し、破壊されたあとも適切な応急処置を講じて観測を継続された等決死的努力の数々が報告せられ、果敢なえ等諸氏の行爲に対しては深い深い敬意を表するとともにこの貴重な資料を十二分に生かして、今後の洪水に備えたいと思う次第である。

昭和34年10月8日

近畿地方建設局長 五井 正彰